

<h1>第 391 回月例会概要</h1>	安全技術応用研究会	
	承認	記録
	企画運営委員長 保 科	企画運営委員 江 口

- ◎ 日 時：2026年4月17日（金）13時30分～16時30分
- ◎ 場 所：対面（きゅりあん中会議室）＋リモート開催
- ◎ 出席者：14名（法人会員名7社8名、個人会員6名、他0社0名）

## 1. 開会挨拶

13：30～13：40 企画運営委員長 保科 修一 氏

- ・コンプライアンス宣言、トピックス他
- ・月例会は今後も対面開催を継続しつつ、対面でしかできない実践的な取組を重視していく方針が示された。
- ・月例会で試行した内容を研修等へ展開し、日本の企業・産業への貢献につなげていく考えが示された。
- ・コンプライアンス宣言として、人権尊重、著作権配慮、情報漏えい防止の3点について確認があった。
- ・著作権の取扱いについては、企画運営委員会及び理事会で基準整備を進めている旨の説明があった。
- ・事務局長交代について案内があり、森正樹氏が4月1日から新事務局長に就任し、小林前事務局長が当面サポートに回る旨の報告があった。

## 2. 近況報告「最近の労働災害や自身の安全活動の紹介など」

13：40～14：20 出席者全員

- ・最近の安全活動、業務上の課題、規格動向、個人の近況等について報告があった。
- ・高齢者対策、熱中症対策、農業分野の労働災害対策、外国人技術者教育、機械規則対応、AI活用、ISO改訂動向等が話題として挙げられた。
- ・保科委員長からは、月例会は会員向けサービスとして重要であり、研究会活動の中核である旨の説明があった。
- ・リスクアセスメントの考え方の見直しや、ISO 12100等の改訂動向を注視していることについて報告があった。
- ・WEB出席者からも、規格改訂への関心、現場での安全診断、国際規格策定対応等について報告があった。

## 3. 活動報告「厚生労働省『職場のあんぜんサイト』の事例を検討した報告について」 労働災害の事例からリスク低減方策を考える

14：20～15：20 村田機械(株) 河島 清孝 氏

- ・実践交流会（旧 関西委員会）における課題研究として、厚生労働省「職場のあんぜんサイト」に掲載された「プレス作業中」の災害事例の検討結果について報告があった。
- ・事故事例の発生状況、原因分析、再発防止対策及び補足資料について説明があった。
- ・災害事例を単に紹介するのではなく、機械安全の視点から有効なリスク低減方を整理する趣旨であることが示された。
- ・題材とした事例では、両手操作式起動装置の配置、光線式安全装置の切替スイッチが無効側に設定され、光線式安全装置が機能しない状態であったこと、視認性不足、教育不足、作業ルール不備等が主要な論点として整理された。
- ・報告後の意見交換では、光線式安全装置が機能しない状態で機械が作動する設備仕様自体が大きな問題であるとの指摘があった。
- ・光線式安全装置の切替スイッチの要否、必要な場合の管理方法、安全モードの考え方、制御盤内での管理の在り方等について議論があった。
- ・具体的な災害事例を機械安全の観点から分析し、講習や研修へ展開していくことの有効性について意見交換があった。

#### 4. 課題実習「実践、安全確認型システムによるリスク低減／第2回」

15:30~16:30 企画委員長 保科 修一 氏

- ・簡単な機械を題材として、安全確認型システムによるリスク低減の考え方を踏まえ、安全関連部の構成を検討する課題実習を行った。
- ・3月の月例会で紹介した図式を活用し、安全機能をどのように構成へ落とし込むかを検討する進め方が示された。
- ・実習では、安全機能を体系的に整理するための図式（空間構成、モード構成、タイミング、接続構成、手順、リスク対応）に基づき、安全機能の構成を段階的に検討する考え方について説明があった。
- ・タイミング図を用いて、機器のON/OFFや動作順序、安全機能の成立条件を時間軸で整理する方法について具体的な説明があった。
- ・安全回路単体ではなく、安全機能の成立条件を整理して設計することの重要性が示された。
- ・今回の内容は、対面で議論しながら進める研修・実習として実施することが適しているとの総括があり、WEB参加の方は機会があれば対面で出席してほしい旨の説明があった。
- ・5月月例会では、本日講演の題材であったプレス機の安全関連部を、安全確認型システムで構成することが課題に設定された。検討対象は、電源・油圧ポンプ・油圧シリンダ・ライトカーテン・両手操作制御装置。

#### 5. 月例会テーマなどの要望事項

16:25~16:35 企画委員長 保科 修一 氏

- ・規格改訂動向（ISO 12100、ISO 13849等）や機械規則への対応について、講義形式で体系的に解説してほしいとの要望があった。

- ・ 今回のプレス機のような具体的な労働災害事例を題材とし、3ステップメソッド等を用いて分析・検討する演習を継続してほしいとの要望があった。
- ・ 月例会のテーマについて、事前に年間計画やカテゴリー（規格、リスクアセスメント、実習等）を提示してほしいとの要望があった。
- ・ 参加者が題材を持ち寄る形式や、会員から講師・発表者を募る運営としてほしいとの意見があった。
- ・ ハイブリッド開催の改善として、カメラと三脚などを用いた撮影環境を整備し、ホワイトボードや教材を映すことで、WEB出席者にも分かりやすい運営としてほしいとの要望があった。
- ・ コロナ禍以前のように、対面開催では出席者が準備や後片付けを手伝うよう要請があった。

## 6. 閉会挨拶「次回開催案内、他」

- ・ 討議、報告及び実習を組み合わせた進め方が有意義であったとの総括があった。
- ・ 第392回月例会は、5月15日(金)13時30分～16時30分、きゅりあん対面＋リモートで開催予定。

月例会説明資料：ホームページ内の会員専用ページにて掲載

以上